

ゲノム医療の地域社会実装に資するゲノム科学教育のための教材開発

【事業の概要】

ゲノム情報に基づいて個々人に最適された予防・診断・治療を行う「ゲノム医療」が広がりつつあるが、ゲノム医療が社会に普及するためには、地域住民のゲノムに対する理解の増進が不可欠である。

本事業では、ゲノム科学教育のための実習教材やVR教材等を島津理化、TOPPANとともに開発を行い、出前授業や市民公開講座、遺伝子診療部受診患者への説明等に活用することで、ゲノム医療の地域社会への普及に貢献する。

【事業実施メンバー】

- ・大日方英 (医学系研究科)
- ・岸美紀子 (医学系研究科)
- ・佐藤綾 (共同教育学部)
- ・秦健一郎 (医学系研究科)
- ・(株) 島津理化
- ・TOPPAN (株)

【意義・効果】

「ゲノム医療推進法」が本年6月に成立し、ゲノム医療の社会実装に向けた動きが加速している。群馬県でも、群馬県・県医師会・群馬大学・県内2病院が参加する「群馬県ゲノム医療対策会議」が昨年7月に設立され、ゲノム医療を推進している。現在、分かりやすいゲノム科学教材は不足しており、医療従事者もゲノム医療に関する教育を受けてこなかった場合が多い。本事業は、学生のゲノム科学への興味を喚起する実習教材、最新のVR技術を活用したデジタル教材等を開発することで、ゲノム医療の地域普及に大きく貢献するものである。

